西俊輔の「毎日楽しく」

Vo1.82　2012年6月号

月イチで書いているこの原稿のタイトル「毎日楽しく」というのは、もともと「しあわせはいつも自分の心がきめる」という相田みつをさんの言葉からヒントを得たものです。私はこの言葉を、人の幸せというものはお金がたくさんあるからとか、社会的地位があるからといったことで決まるものではなく、今の自分の状況を幸せと思えるかどうかで決まるということだと理解しています。つまり、毎日を楽しく生きることができるかどうかも、結局は自分の心の持ち方しだいだということです。これをどんな状況でも実践することができれば、たとえどんな逆境にあっても、その中で幸せを感じることができるのかもしれません。

また、以前の「毎日楽しく」で、「最善観」ということを書いたことがあります。この世界はすべて最善にできていて、それを構成している私たち自身の運命もまた、その人にとっては最善という意味を有している、ということだそうです。つまり、自分の身の上に起こる事柄は、そのすべてが、その人にとって絶対必然であるとともに、また最善なはずだという意味です。

哲学者の森信三先生はこの「最善観」という考え方に関して、物事にはすべて裏と表があり、自分が不幸と考えた事柄の中にも深い教訓がこもっている場合があり、表面がマイナスであれば裏面には必ずプラスがついているのに、それに気づかず表面のマイナスばかりに気をとられているのは、それこそ不幸だとおっしゃっています。その逆に、順調な生活を送っている間はとかく人の情とか他人の苦しみには気づかないもので、表面がプラスであれば、裏面にはちゃんとマイナスがくっついているという事実を忘れがちだともおっしゃっています。

さて、実は私、先日足のスネを骨折してしまいまして、この原稿を書いている現在、松葉杖を使う生活をしています。幸い外傷などはなく、入院もせずに済んでまして、また骨折したのが左足だったため車の運転もできますので、なんとか一人で外出もできてます。というわけで、骨折という不幸な出来事の一方でこれだけの「不幸中の幸い」と思えることもありまして、また、まわりの人たちのやさしさや、普段の健康のありがたさもあらためて感じることができましたので、そういう意味ではよかったのかもしれません。